

# 茅風



Breeze from the field of thatch-grass

2022年7月4日  
森林塾青水  
事務局便り  
茅風通信69号



野焼き講習会は天候に恵まれた 撮影:清水英毅

## 目次

- 2月～5月の活動報告(事務局).....1
- 第22回定期総会開催報告.....2
  - ◆新年度新規・重点項目
  - ◆2023年度の役員構成
  - ◆2023度の主な活動計画・日程
- セミナー報告
  - 「みなかみから始まるネイチャーポジティブプロジェクト」
  - ◇講師 朱宮文晴(日本自然保護協会)
- 2022定例活動⑧.....4
  - 「上ノ原 雪原トレッキングと自然体験」
  - ◆開催報告(草野 洋、稲 貴夫)
  - ◆感想文(新井愛菜、新井翠、須賀幹斗・建琉)
- 2023定例活動①.....6
  - 「茅場の野焼き」
  - ◆開催報告(草野 洋)
  - ◆感想文(唐木田耕大)
- 麗澤中学校樹木観察会.....7
  - ◆実施報告(草野 洋)
- 藤原だより(北山 郁人).....9  
藤原益
- 野守のつぶやき(清水英毅).....10  
編集後記(敬称略)

## 2023. 2 中旬～2023. 6 中旬の活動報告

### 【2月】

- 18日 「脱炭素ライフスタイルフェア in G メッセ ぐんま森林活用アイデアコンテスト」が開催され、NPO 水源ネットが応募。参加 20 組の中で最優秀賞を受賞。提出したアイデアは「コモンズフォレスト里山レンタル」で、遊休地の活用を図るもの。(前号「藤原だより」で紹介)

### 【3月】

- 11日、12日 「上ノ原雪原トレッキングと自然体験」実施。会友 5 名(いずれも初参加) 含め 12 名参加
- 28日 「茅風」68号発行。

### 【4月】

- 8日 定期総会実施、会員 51 名中 19 名出席、委任状 22 名。
- 8日 定期総会后、セミナー実施。講師は公益財団法人日本自然保護協会朱宮氏(青水会員)、テーマは「みなかみから始まるネイチャーポジティブプロジェクト」
- 29日、30日 「野焼き」実施 参加者 47 名(うち日帰り 4 名)、宿泊者が多かったため、当初手配の吉野屋に加え、関ヶ原に分宿。

阿部町長が初日来駕、挨拶をいただく。ほか、大穴消防団も応援参加。

2日めは降雨のため野焼き不能だったが、初日の講習会で 800 m<sup>2</sup>ほど火入れを実施。

- 30日、野焼き日程終了後、有志でニホンミツバチ用の待ち箱(分蜂を取り込む装置、空洞木を利用、内部に蜜蝋を塗ってある)をクマ避け電気柵とともに設置。また、東工大建築科院生グループを古民家に案内。

### 【5月】

- 27日 麗澤中学校樹木観察会を実施(於 柏市) 先立って 20 日に下見実施。147 名の生徒を、11 名の教員の協力の下、13 名がインストラクターとして指導にあたった。

### 【6月】

- 17、18日 「森林整備でリトリート」実施。会員 12 名、会友 7 名の計 19 名参加。(写真・下詳細は次号で紹介)



■第22回「定期総会」開催報告  
2023年度事業計画を承認、茅場の安定的な循環の仕組みを強化へ 報告 稲 貴夫

森林塾青水の第22回定期総会が、去る4月8日(土)東京都中央区の晴海区民館を会場に、19名の会員が出席(委任状出席22名)して開催されました。北山塾長挨拶の後、清水顧問が議長を務めて議事が進められ、すべての議案が承認、可決されました。その概要は以下の通りです。



○第1号議案「2022年度事業報告及び会計収支」

北山塾長が以下の通り報告。前年度の重点取り組みのうち、「ゆるぶの森」での新しい活動については、リトリートプログラムにより新しい層の参加があったが、希少種の保全については、まだ組織的に進める段階に至らず。また、茅の販路が拡がりを見せるとともに、「茅穂の採集と種の供給」という新しい生態系サービスの可能性が実現に近づいた。これにより、従来からの課題である担い手問題が待った無しとなり、対策が急務となった。

その他、前年度の特記事項は以下の通り。雪が少なく、従来の「雪間」の野焼きではない。5月に上ノ原入り口付近で失火による火災が発生、その直後に記帳台が完成。6月には「未来に残したい草原の

里100選」第一回の34ヶ所の一つに上ノ原が選定。10月はコロナ禍で中止されていた麗澤中学校「奥利根水源の森林フィールドワーク」が再開。前年度収穫した茅の総数は、3245束(649ポッチ)で、日本茅葺き文化協会の斡旋によりつくば市の国指定史跡「平沢官衙遺跡」の茅葺き建造物の修復に活用されることとなり、11月の茅出しで全量、つくば市の担当部局の職員により引き取られた。

○第2号議案「2023年度事業計画及び会計収支予算案」 草野事務局長が説明し、以下の質疑応答などを経て原案通り了承された。

・都会でなく自然豊かな上ノ原に、新たにビオトープを造成した意義について➡防火用の水槽や夏場の水遊びなど、様々に活用できること

・昨年ポヤの発生に対する対応について➡山菜シーズンなど、大勢の来訪者に備えて、記帳台を活用し注意喚起につとめる

新年度事業計画の骨子  
及び基本方針等は以下の通り

- ・都市、地元、利根川流域の住民が**飲水**の志でつながり、楽しみながら汗を流す。
- ・人と自然の**ほどよい関係**で、生き物たちでにぎわう上ノ原の「入会の森(茅場・ミズナラ林)」を持続的に保全・利用していく。

	ベースの活動	新規取り組み・重点取り組み
茅場保全	野焼き 茅刈り・運びだし 茅買上げによる茅活用のしくみ定着化	行政はじめ広い層からの協力・支援の獲得 茅刈りの担い手の育成と確保 茅の商品としての品質向上、新しい販路(関係先)開拓 記帳台の活用による、山菜取りなど茅場の利用状況調査
ミズナラ林保全	二次林の若返り伐採と資源の活用 自伐型林業との協働と利用推進 ゆるぶの森整備	抜き切りの推進、薪、木炭、木製品 リトリートプログラム活用 センサーカメラによる生き物調査(赤谷プロジェクトとの連携) ニホンジカの調査捕獲(前年から継続) リトリートプログラムの推進 広報活動を通じて利用働きかけ
次世代への橋渡し 生態系サービスの発掘 社会貢献・地域貢献	藤原小中学校との協働 環境教育のお手伝い 茅の穂(種)の活用	希少植物の栽培を通じた環境教育 麗澤中学校の環境教育受託 茅の種採取、販売
活動基盤 維維持強化	環境資源の発掘、掌握、アピール 担い手の拡充 流域諸団体との連携	草原の里100選、重要里地里山500、モニタリングサイト1000、昆虫等保護条例指定地、SDGsを意識した活動 NAX-Jと連携した(OECM、自然共生サイト)への登録 茅刈新規参入者の促進、地域おこし協力隊、自伐型林業の研修参加者への働きかけ(前年度から継続) 大学など教育機関との連携、働きかけ 茅葺き文化協会のチャンネル活用

○第3号議案「2023年度役員選任」 右段に掲載の役員構成を承認。

○第4号議案「会則改正」 正会員の入会金を3千円から1千円に減額すること(第5条)、本会と「上ノ原入会の森」の関係を「会の管理するみなかみ町藤原上ノ原入会の森」と実態に合せ修正すること(第6条)、及び退会手続きの簡素化(第7条、会員の申し出による)について異議無く了承、総会は終了した。

◆2022年度の主な活動計画・日程について◆

諸事情により変更する場合があります。参加申込みの際は必ず事前にホームページ等でご確認下さい。

月	主な活動予定 ①～⑧は定例活動・カッコ内は現地行事
4	総会・セミナー/8(土) ① 野焼き・山の口開け/29(土・祝日)・30(日)
5	麗澤中学校樹木観察会/27(土)
6	② 森林整備とリトリート/17(土)・18(日)
7	③ 防火帯刈払い・歩道整備/15(土)・16(日)
8	④ 植生調査(藤原区民祭、藤原湖マラソン)/19(土)・20(日)
9	連係先訪問(日光茅ボッチの会 ほか)/中旬
10	⑤ ミズナラ林整備と茅の穂採取/7(土)・8(日) 麗澤中学校奥利根水源の森林フィールドワーク/下旬 ⑥ 茅刈り・茅刈り合宿/28(土)・29(日)
11	⑦ 茅出し、山の口終い/18(土)・19(日)
12	活動予定なし
1	流域連携活動、小貝川・菅生沼の野焼き/期日未定(後半の土日)
2	活動予定なし
3	⑧ 冬の自然観察と雪原トレッキング/9(土)・10(日)

楽習会(首都圏部会による流域連携活動)等は時期未定

通年事業(行事の中で実施)

- ・希少種の育成、生育状況モニタリング
- ・NPO奥利根水源地域ネットワーク側面支援
- ・自伐林業との相互交流
- ・茅の販路開拓
- ・全国草原再生ネットワーク等
- ・楽習会(首都圏部会中心に2、3回を予定)
- ・連携団体への上ノ原来訪・利用呼びかけ

◆今年度役員構成◆

～塾長・事務局長・幹事・顧問・相談役等紹介します～

塾長

北山 郁人 全般統轄  
みなかみ事務所長(地元・みなかみ町役場ならびに支援企業との連携、資材等管理)

事務局長

草野 洋 全般にわたる企画・管理  
全般統轄補佐  
下流域部会統括

幹事

稲 貴夫 「茅風」編集長、東京楽習会・流域連携総会/セミナー 会計監査兼務

岡田伊佐子 麗澤中補佐「樹木観察会/FW」、自然ふれあい学習、東京楽習会補佐、総会/セミナー補佐

尾島キヨ子 麗澤中補佐「樹木観察会/FW」、下流圏プログラム補佐、茅刈り合宿

西村 大志 WEB管理、助成事業、広域連携補佐(草原再生ネット、草原サミット)、麗澤中(統括、窓口)

藤岡 和子 児童青少年の教育プログラム企画実行、コモンズプログラム企画開発、茅刈り合宿補佐

松澤 英喜 事務局長補佐(予算管理、会員管理、総会、幹事会ほか)、助成事業補佐、WEB管理補佐、会計・出納

柳沼 翔子 現地活動塾長補佐、プログラム企画開発 広報

吉野 一幸 地元代表、地元の活動参加促進、地元情報発信

顧問

安楽勝彦 川端英雄 笹岡達男 滑志田隆  
清水英毅

オブザーバー

みなかみ町担当者  
林 親男 地元関係相談役(藤原案内人クラブ)

本メンバーで一年間、青水を運営します。  
皆様のご協力をよろしくお願い致します。

■セミナー 朱宮 文晴 日本自然保護協会  
「みなかみから始まるネイチャー  
ポジティブプロジェクト」 報告 稲貴夫

今年の総会セミナーは、青水の会員であり、(公財)日本自然保護協会(NACS-J)で生物多様性保全部のチームリーダーを務める朱宮文晴さんより、

「みなかみから始まるネイチャーポジティブプロジェクト」と題しお話しいただきました。

昨年12月、カナダのモントリオールで開催された生物多様性条約締約



国会議 COP15 において、生物多様性の損失に歯止めをかけ自然を回復させるネイチャーポジティブな社会を、2030年までに実現するための世界目標が定められました。この実現のための取り組みの一環として、今年2月、三菱地所、みなかみ町及びNACS-Jの三者による10年間の連携協定として、このネイチャーポジティブプロジェクトが締結されました。

このプロジェクトの特色は、「みなかみユネスコエコパーク」の選定や「赤谷プロジェクト」というこれまでの実績に加えて、企業版ふるさと納税という新しい施策を推進財にして、国際間の課題に取り組むことにあるでしょう。主な活動としては、以下の五点をあげています。

- ①生物多様性が劣化した人工林の自然林への転換
- ②生物多様性豊かな里地里山の保全と再生
- ③ニホンジカ低密度管理の実現
- ④NbS (Nature-based Solutions: 自然に根ざした解決を図ること) の実践
- ⑤生物多様性の定量的評価への挑戦と活用

いずれも上ノ原での青水の活動に密接に絡んだ内容ですが、朱宮さんはこれまでの現地調査を踏まえ



パワーポイントを使って、青水の活動との関係性についても詳しく解説いただいた

て、ニホンジカの問題やため池の重要性、三キロメートルの距離と三百メートルの高低差を名倉沢が結んでいる上ノ原と一畝田(諏訪神社付近)の植物相などに焦点をあてて解説いただきました。

最後に、COP15で合意された2030年に向けた目標のひとつであるターゲット3と、そのカギであるOECMについて解説いただきました。国立公園などの自然保護区域だけでなく、人の暮らしと関わる自然共生サイト(OECM)も含めて、陸と海の30パーセント以上を保全していこうとするもので、「30by30」と呼ばれています。

最後の質疑応答では、このプロジェクトに関連して、青水の位置付けに対するみなかみ町のスタンスなどについての質問がありましたが、このプロジェクトのスキームはこれから形作られるとのこと。飲水思源の理念の大切さとともに、関係団体との連携の大切さを改めて感じることができました。

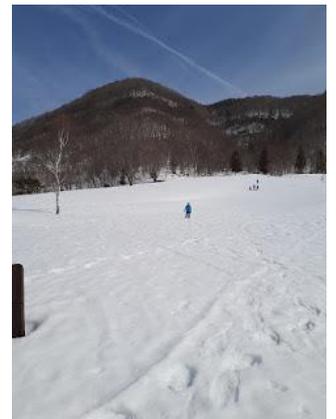
■2022定例活動⑥

「雪原トレッキングと自然体験」

今年度最後の活動である恒例の「自然体験・大幽洞トレッキング」を3月11、12日に実施しました。今回の参加者は小学生2名を含めて12名、うち5名が初参加者でした。

今年の上ノ原は雪が少なく、昨年に比べると半分、広場の看板も丸見えの状態でした(写真・右上)。

初日は、和カンジキ、スノーシューを履いて、上ノ原の雪原を歩きながら自然観察と3日前に仕掛けたメープルシロップの採取装置を回収しました(写真・右)。今年は気候のせいか樹液の出が余りよくないようです。途中斜面でそり滑りを楽し



みましたが、気温が高く雪はざらざらの状態でスピードが出ません。それでも2時間ほど雪原を歩き雪国体験をしました。



今宵の車座講

座は明日のトレッキングに役立つように「冬芽観察のポイント」のパワーポイントを上映しました。

2日目は、大幽トレッキング組と上ノ原トレッキング組に分かれての行動です。上ノ原組は茅場を炭窯の方に上り、木馬道を経て、柞の泉から茅場に出るちょっときついコースを歩きました(写真・前頁右下)。途中、谷川岳などの絶景を眺め、冬芽や樹木の解説をしました。上りはじめは雪も硬く楽勝でしたが気温が上がってきたら雪が緩みなかなかの難行となりました。(以上、草野)

大幽トレッキングの参加者は、総勢五名。朝八時に宿舎を出て、武尊山登山道入り口で車を降りて、それぞれスノーシューに履き替え、ベテランガイド



オニグルミの葉痕



氷筈

でした。

暫くすると、別のグループがやってきたので場所をゆずりましたが、先頭で登ってきた高齢のおじいさんにメンバーの一人がお歳を伺ったところ、何と御歳99歳。健脚に驚くとともに、私たちも元気をもらったようでした。

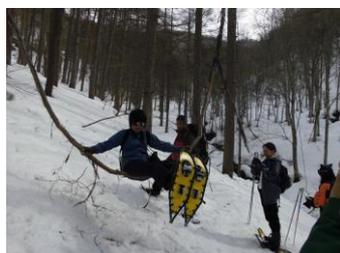
帰路は尾根の反対側に出て、ところどころ滑りながら降りてゆきました。

最後に、雪原だからできるかめはめ波攻撃遊びなどをして、童心に帰りながら楽しく、そして心が洗われる汗をかくことができました。(以上稲)

## ■参加者感想

### ●新井愛菜&新井翠

車座講座や歩きながら聞いた物知な会員の皆さんの話は、私たちの知らないことばかりで、とても楽しい時間になりました。その中でも印象に残っていることがいくつかあります。



楓の樹液採取です。樹液はヤニのように粘り気があるかと思って見ていましたがサラサラで水のようにでした。味はほんのり甘かったです。

スノーシューは、急斜面をストックを使って滑り落ちたのがとても楽しかったです。

ストックを使えばスピードが出過ぎないことを学びました(写真・左段下)。かめはめ波の写真を撮ったのは面白かったです。

ここでしか味わえない自然体験ができ貴重な時間でした。ありがとうございました。

このような自然体験イベントに参加することが多いですが、東京から参加している人がほとんどで驚きました。みなさん、多ければ1ヶ月に一回は藤原を訪れているようで、都会の方が気軽に自然に親しむことができる良い環境だと思いました。私は昔の暮らしに興味があるので、これから野焼きや茅刈りなどに参加してみたいです。

その土地の歴史、課題など普段何気なく遊びに行っている自然の中にも色々な背景があり、守られている人たちがいることを実感しました。

以前はかまくらづくりもしていたと伺いました。来年できたら嬉しいです。

### ●須賀幹斗(みきと)君・12歳

ぼくが、水上で特に心に残ったことは、かんじきで雪の上を歩いた事と、冬芽の観察をした事です。

初めての雪山で、かんじきのひもをうまく結ぶ事が出来なくて、すぐに解けてしまって、なかなか進むことが出来なかったけれど、かんじきがある時と無い時で、雪に沈む深さがぜんぜん違うと分かりました。

また、冬芽についても知ることが出来ました。冬芽は、無事に冬を越すために、木の種類によって、違う工夫がされていると分かりました。ねばねばした液を出したり、何枚も重ねたりして、寒さで死なないように工夫をしていると分かりました。蓮田でも冬芽を探してみたいです。

### ●須賀建琉(たける)君・10歳

雪の中、急な坂を登るのがとても楽しかった。蓮田では、こんなにいっぱい雪が降らないからびっくりしました。メープルシロップをなめてみたら、木の味がしてびっくりしました。初めてソリに乗って、すごくこわかったです。でも、なれてきたら楽しかったです。桜の新芽やトチの木の新芽を観察出来ました。トチの木の新芽はベトベトしていることにびっくりしました。夜、外に出てみたら、いつもより星が大きくハッキリとよく見えました。



かめはめ波命中!!

■2023定例活動① 「野焼き実施報告」  
講習会で小面積を野焼き 本番は雨のため  
植物観察と「野焼きの科学」講座を実施  
報告 草野 洋

コロナ禍で2020, 2021年と中止を余儀なくされ、2022年は参加者に毛羽立てをしてもらったにもかかわらず、降雨で湿った茅場のススキの燃え具合はいまいちの野焼きでした。今年こそはと現地入りした4月29日は晴れ間があり、それまでの数日間の天候も良く、ススキも乾いていてよく燃えそうですが、本番の30日は降雨の予報となっています。

昼食後は山の口開けの準備で、広場にタルチョも掲げました。今年の「タルチョ」は新しいバージョンで布が輪になっているので、その中を風が通り抜けると、ありがたい経文が周囲にひらめく仕組みになっています(写真・右)。

山の口開け神事では上ノ原の自然、安全と収穫の願いを謳った「祝詞」が詠まれ草原に厳かな時空が流れていました(写真・右)。

はじまりの式では、新任の阿部賢一みなかみ町長が塾の担当課の原澤環境課長とともに来場され挨拶をいただきました(写真・右)。また、上ノ原の茅を重要文化財の修復に使っていただいている町田工業の新社長と、前社長である町田会長においでいただき、新社長には一緒に作業をしていただきました。



野焼箇所の説明

野焼きの場所はCブロック。昨年茅刈をしていてススキ以外の植物がかなりの勢いで増えていたことから、順番で予定していたBブロックから変更して実

施することになりました。

この日の作業は、前日までに現地の自伐林業チームが刈払った防火帯の可燃物を熊手で燃やす側に掻き込む作業で、4つの班に分かれて実施しました(写真・上)。

この作業は2時間ほどで終わったので、明日の天気を考えて野焼講習を例年より充実した内容で実施することにしました。まず、その区画を区分して防火帯を廻らし、点火者及びジェットシュータ隊を指名、配置して、津田先生の火の中カメラと温度計の設置が整ったの見て点火し、約800㎡(0.08ha)を予行練習で火入れしました。結果的にこれが2023年度の野焼面積となりました。

今回の宿泊者は人数も多く、感染対策もあって吉野屋と樹林に分宿、車座講座と交流会は他の宿泊客への配慮もあって樹林の食堂をお借りして行いました。

車座講座は笹岡顧問に「上ノ原の野焼き15年」のテーマで語ってもらいました。これまでの野焼きの結果やエピソードなどを、清水、北山、草野の補足を入れながら皆で共有することができました。以前の野焼きは雪の中でしたが、近年は温暖化の影響か雨にたたられる日が多くなりました。この時季、ピンク色の濃い美しい花を見せてくれるオオヤマザクラも今年はすでに葉桜。笹岡顧問が解説する野焼風景の写真から、年毎の周囲の景色の変化を見取ることができました。

その後の交流会は、藤岡和子さんの司会で進められ、初参加者に話を振っていくと研究分野が同じなど参加者同士に意外なつながりがあること分かりました。

夜中過ぎから雨が本降りになったようで2日目は予報通り雨の朝を迎えてしまいました。参加者は約50名で、今回は大穴の消防団も特別に支援出動してくれます。



野焼き講習会

この状態では野焼は無理と分かっているにもかかわらず、今日半日をどう過ごすかと朝から空を見上げたり思案したりした挙句、朝食の時、困ったときの津田・小幡両先生に相談、小幡先生が植物観察を、津田先生に火の中カメラや温度センサーの結果を交えてFire ecology（野焼の科学）について講座を開いていただくことになり、安堵できました。

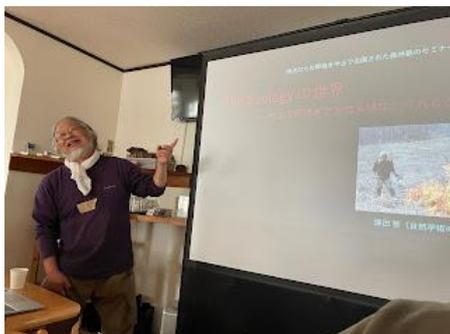
津田先生を講座準備のため宿に残して一同は上ノ原に集りましたが、しとしと雨でススキはずぶぬれ、これではいくら情熱があっても火は着きません。



しかし、レインコートを着た小幡先生の「上ノ原らんまん」がはじまりました。この時季は満開のはずのオオヤマザクラが、今年は葉桜になっています。それでも残った花で、桜の種類による花や葉の違い、スマレ、イタヤカエデの花、クロモジの花など、いつもの素晴らしい解説で参加者は大満足です。

2時間ほどで吉野屋に帰ると、食堂で弁当を食べながら、津田先生の講義が行われました。講義はパワーポイントで写真や動画を映しながら、野焼をしたところとしないところの植生の違いがデータで示され、野焼の効果がよく理解できる内容でした。

両先生、誠に有難うございました。



野焼本番は不発でしたが参加者全員が持ち味を發揮して情熱を燃やして過ごした2日間でした。

## ■参加者感想

### 「流域 commons」に参加して

唐木田耕大

今回初めて野焼きおよび森林塾青水の活動に参加いたしました、大学院修士2年の唐木田耕大と申します。私は、所属する東京大学都市デザイン研究室のまちづくりプロジェクトで、みなかみ町の水上温泉街を中心に活動しています。地域について学ぶ過程で、エコツーリズムや自伐型林業など豊かな自然と人との共生がみなかみ町の魅力であることを知り、知識だけでなく実際に体験してみたいと考えていました。また、学部時代は今とは違う研究室で景観生態学を研究していたため、全国で激減している茅場の野焼きに参加できる貴重な機会に惹かれ、今回の参加を決めました。

残念ながら野焼き本番は中止となってしまいましたが、一日目の練習では火の広がる様子を間近に見ながら熱気を肌で感じる事ができ、良かったです。また現場での作業や自然観察会と、宿での講座や交流会という二方向のアプローチにより、活動への理解がより深められました。野焼きを通じて現代の入会地の新しいあり方を体験した濃密な二日間でした。

今回初めて参加して、老若男女、学生や研究者、みなかみ在住の方から東京在住の方まで、本当に幅広い方が参加されていることに驚きました。利根川の最初の一滴を生み出す上ノ原は利根川流域全体のcommonsであり、同時に環境保全・研究・茅生産・伝統継承などそれぞれの関心にあった関わり方を受け入れるcommonsでもある、そんな「流域 commons」のスケールの大きさと懐の広さを感じました。現在、里山の管理放棄が全国で大きな問題となっていますが、担い手や方法、目的を変えながらも野焼きが復活した上ノ原のように、時代に合わせてしなやかに変化する「生きた伝統」が各地に広がってほしいと思いました。

今回お世話になったみなさま、本当にありがとうございました。研究室のまちづくり活動では社会実験なども実施予定ですので、その際はぜひ足を運んでいただければと思います。(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)

## 麗澤中学校樹木観察会

### ～五感を使って自然を楽しむ～

報告 草野 洋

5月27日土曜日、8時45分、青空のもとさわやかな風が吹く麗澤学園の広場に1年生147名(欠席2名なので今年の1年生は149名)引率の先生11名、インストラクター13名が集まった。

生徒たちはA～E組を2班に分けた10組、それにインストラクターが1～2名、引率の先生が1名のグループ編成である。



東京ドーム 10 倍の敷地に約 300 種の植物が生育

広場での対面式のあと、各グループはあらかじめ決めておいた広場のケヤキなどの大木の下に移動して観察会が始まった。

大木はインスタラクションのつかみ、その後は、種、実生、葉などを触る、見る、嗅ぐ、聞く、味わう、そして想像する。これが今日の観察会の大目的。



左:糞には消化しきれない種が 上:朽ちた切り株から蟻。突っいたら卵発見

今の時季、イヌシデ、ヒトツバタゴ、イロハモミジ、ザクロ、ビワ、オオバボダイジュ（花）、など校庭の多様な樹木は花から実へ移る時期、コースをたどりながら生徒たちが興味を持ちそうな種の散布の仕方など樹木が持っている数々の智慧を解説する。生徒たちは目の前に現れたものに興味を示すのでこちらも臨機応変に対応、この日、解説できたのは下見



で目論んでいたネタの半分。それでもこれだけほと、予定していた樹木などに誘導する。味覚を使うヤブニッケイの葉を食べさせようとするが、ほとんどの生徒はしり込みして食べたのは5名ほど。通学路の森に近い状態の林の中に誘導して森林土壌の感触を体験してもらおうが、2名ほどは入りたがらない。こちらでも強制はしない。

9時に始まった観察会、途中休憩をはさみ11時には広場に戻り、ラワンの種模型の「タネ飛ばし」の遊びの時間を30分ほど取った。ある程度飛ばし方が出来るようになったので競争を持ちかけた。遠くまで飛ばしたチ

ャンピオン、滞空時間の長いチャンピオン、もう一度滞空時間でチャンピオンを決めて、3人でグランドチャンピオンの座を争う。各グループの歓声が広場に響いていた。(写真・上)



その後、昼食を済ませそれぞれの教室でまとめ・発表をして樹木観察会を終えた。以下は、二名のインストラクターから寄せられた感想です。

### ●五感で植物観察

お受験を突破した、文字見まくり、文字知識ありまくり千葉県某私立中学一年生に、からだで知る五感学びのインストラクターをしてきました。

我グループ観察開始のシンボルツリーにカラスが二羽とまっている。すると、ポトリ。糞には消化しきれない種が！！種はどのようにして生育域を広げるのか？の答えが降ってきた。

これを目で見て（○）匂いを嗅いで（なし）触って（なし）食べて（ダメ）聴いて（なし）想像して（○）。いったい何を食べているのかと考えさせられる絶好の教材をカラスがくれた。

### ●清々しい青空良い陽気

私はB組15人を担当。いざ、観察開始。「はい！B組3グループこっちで一す！」と、手を上げて移動を始めたら、あれ？あれ？子どもたちだけ？毎年各グループに一人先生が着いてくださるのだけれど、あれ？子どもたちしか着て来ない。先生抜きグループだった模様。今日初めましての子どもたち、誰もはぐれずわたしだけで2時間いけるのかー！

興味を沸かせることができるのか否かが鍵。それを救った？のがわたしの滑舌かもしれない、説明中、滑舌悪いて、男子生徒に突っ込まれた～。「○○○って3回言ってください。」チャレンジさせられるも言えず(その子も言えなかったけど)。う

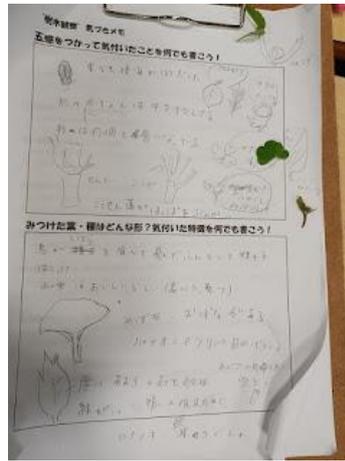
んなことない！！って答えたけれど、生徒のメモ書きに証拠が！！(→右の写真)

ハナノキでは、今起きているリニア開発との関係話を話して、みんなどう感じたかを発言してもらった。アカメガシワでは、新芽がなぜ赤いのか？新芽の葉を指で擦ると赤い毛が落ちて色が変わる、その毛の意味から、パイオニアツリーと森の話をしたりと、楽しい観察になりました。

最後は、サザエさんのエンディングを大合唱しながら他のクラスと合流する我がグループ。

ふう〜。15人みんないる。

秋には、この子たちと里山体験です。今から楽しみ。



滑舌悪いと突っ込まれた証拠がここに！

萌芽(ほうが)  
→こうが

放線菌(ほうせんきん)  
→こうせんきん

「ほう」は「こう」に聞こえることが判明(笑)



**藤原だよりー現地事務所報告ー**  
**藤原盆研究会が発足**  
北山 郁人

藤原盆研究会が発足しました。  
盆好きのバイブル『盆百選』(瀬良陽介著/平安堂書店)に、藤原盆はこう説明されています。

「群馬県利根郡水上村大字藤原に産した盆である。当地は古来橡(トチ)、ブナなど落葉喬木に恵まれた為木地師が多く住みつき〜(中略)〜藤原盆には丸盆の外、楕円形盆、四方盆、八角盆、六角盆、扇面形盆、半月形盆など形状は多種多様あるが、いずれもその多くは橡製で、荒い鑿跡を残し、それが一種の線彫模様としての効果を持っている。」

上毛新聞でも、この研究会について紹介されました。

▼「藤原盆」と呼ばれる木製のお盆をご存じだろうか。十数年前までみなかみ町藤原で作られていたもので、円形や四角形、半月形、扇形などさまざまだが、表面にのみで削った跡を放射線状の模様として残してあるのが特徴だ。

▼漆を塗ったり花木を描いたりした高級品だけで



なく、うどんや団子を作る際に使う「こね鉢」のような実用品もある。豊かな木材を冬場の収入につなげようと、江戸時代中期に始まったらしい。

▼生活様式の変化とともに需要は減り、職人もいなくなってしまう。今では古美術や骨董(こつとう)に関心がなければ、知っている人はまれ。地元でもほとんど知られていないという。

▼「先人が作り上げ、多くの人に愛されたものが、消えてしまうのはもったいない」。今年3月、同町月夜野の嶽林寺(がくりんじ)住職、鈴木潔州(けっしゅう)さんと、沼田市の指物師、吉澤良一さんらが研究会を立ち上げ、復活プロジェクトをスタートさせた。

▼現物や文献資料を探して冊子にまとめ、映像でも記録、秋には展覧会を開く。盆や鉢を復刻するほか、それらで作ったうどんなどの試食、参加者同士が語り合う機会も設ける予定だ。

▼「作り方や形の再現だけで終わらせたくない」と2人は口をそろえる。藤原盆を核に多くの人に地域の歴史や文化、産業に目を向けてもらい、伝統を踏まえた新しい製品も生み出す。大きな目標を掲げて歩み出した研究会を今後も応援したい。

■野守のつぶやき・25号：ポスト20周年の展望  
～流域コモンズの新たな地平を拓こう～

1. 23年度活動の始まり＝野焼きの成果、など



参加者のうち群馬県下からが全体の2割、利根川流域外が3割。昨秋の茅刈と同傾向を示しており、目指してきた流域コモンズが強固かつ外延的の広がりを見せつつあるものと思われる。



・来賓ご挨拶の中で阿部町長は「私のモットーは愛郷無限。青水塾の合言葉は飲水思源で相通ずるものがあります。河川の流域で恩恵を被る者同士がその源に感謝しつつ力を合わせましょう」といった趣旨のご発言をいただいた。町長はご持参のカメラで、広場内の「飲水思源」の門柱の写真を撮っておられたのだ。

・町田工業の茂会長と守俊社長の父子にも、初めてお揃いのご参加をいただき、社長には防火帯づくりの作業にも加わっていただいた。我々が大切に育てた茅も“町田工業さんに引き取ってもらわないと、国の文化財の屋根にはなりません”。これを機に、従前通り密なるお付き合いをお願いいたしたきもの。

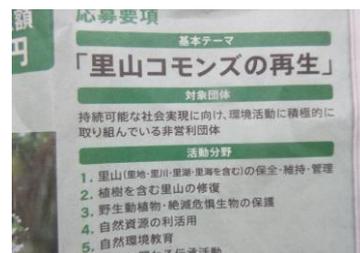
・2日目の雨に合わせて、小幡先生にフィールドの自然観察会を津田先生に火入れの科学の学習会をお願いした。参加者各位にとっては、思わぬ学びの機会となったのでは。ありがとうございました。



4月29～30日、地元消防団も含め58名が集合。2日目＝雨の予想を踏まえ、初日の晴れを利用して予行演習的の火入れを実施。一般参加者の学習効果大なるものがあつたのでは。

・来賓ご挨拶の中で阿部町長は「私のモットーは愛郷無限。青水塾の合言葉は飲水思源で相通ずるものがあります。河川の流域で恩恵を被る者同士がその源に感謝しつつ力を合わせましょう」といった趣旨のご発言をいただいた。町長はご持参のカメラで、広場内の「飲水思源」の門柱の写真を撮っておられたのだ。

- (1) '00年9月：森林塾青水の発起、木工家仲間と
- (2) '02年9月：現代版「入会慣行を考える集い」立上げ以後5回、東京開催・毎回20名弱参加
- (3) '03年4月；上記の過程で、森林塾青水として町有地・上の原(元・入会山)の管理受託契約。直ちに、基礎的調査に着手
- (4) '04年5月：実践講座「コモンズ村・藤原」の開設～上の原を主たるFDに6回/年開催～合言葉「飲水思源」の通年型エコツアー～利根川流域コモンズを標榜
- (5) 因みに、この前年'03年4月29日付け毎日新聞・社説に「みどりの日にあたり、森の未来を思う日にしよう」として宇沢弘文氏による社会的共通資本の紹介とコモンズの実践・奨励論が紹介されていた。
- (6) そして、20年後の今年＝'23年6月上旬の新聞紙上で見かけた某有力助成団体の今年度応募要項。基本テーマはなんと「里山コモンズの再生」!



●20周年と向後のあり方・方向性、など

- (1) 聞けば、当塾は既に数次にわたりこの団体から助成を受けている由。それは佳として感謝しつつ、一層気を引き締め、真の「飲水思源」実践に励むべし
- (2) そして、会員諸兄・参加者各位並びに地元や行政当局の皆さま方のご要望・ご関心に耳傾けつつ
- (3) 未利用資源の更なる開拓と生態系サービスの一層の拡充を図り、「流域コモンズ」の範たるを目指して研鑽を！ 又、はみ出し？ でも、これで店終い(完)

～下は4月30日朝、今は亡き・惣一郎さんの墓前に  
(民宿「関ヶ原」敷地内)

～そして、6月某日。  
愚生、満82歳を何とか通過。感謝。  
でも、  
八十は  
老いの序の口  
冬若葉、とか  
令和5年水月 (青)



～編集後記～

『茅風通信』No. 69をお届けします。コロナ禍一段落の初年度。総会後最初の行事「野焼き」は本番は雨でしたが、前日の野焼き講習や当日の代替プログラムへの転換など、恨みの雨でも最善を尽くし、前向きに受け止めて、福に転じる知恵と心意気をこれからも大切にしたいです。上ノ原で活動を始めてから20年が経ち、「野守のつぶやき」店主の清水顧問は店終いを考えているようですが、20年は新しい始まりにしたいもの。次号から当店は笹岡顧問が引き継ぎ、「顧問'S(コモンズ)広場」としてリニューアルの予定です。(稲)

2. 20周年の戒めと今後の展望、など

●当塾が主たる活動拠点を水上町藤原・湯の小屋(国有林地)から現在の同地・上の原(町有地)に移してから、今春で20年が経過。いろんな意味合いで潮時かなと思い、昔の記録をひっくり返し整理してみた。色々面白いことが見えてきた。